

令和7年度

所 報

Annual Report 2025



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家

目 次

はじめに	1
----------------	---

教育事業一覧及び事業実施報告

令和7年度教育事業一覧	2
テンパークボランティア養成事業	4
テンちゃんキャンプ	6
テンパーク冒険子ども食堂	7
あつまれ！岩手山冒険村～秋～	9
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」	11
テンパーク・鞍掛山登山	14
テンパーク・わくわくキャンプ	17
テンパーク・ウィンタークラブ	19

令和7年度記事掲載状況一覧	21
-------------------------	----

施設利用実績	22
------------------	----



は じ め に

1 所報の趣旨

この所報は、国立岩手山青少年交流の家（テンパーク）が実施している事業を広く一般に紹介するとともに、将来の参考とするため、令和7年度において、本施設で実施した教育事業とその内容、新聞等に掲載された記事（見出し等のみ）、施設利用実績等を掲載しました。

2 肖像権等の取扱い

本所報に掲載されている写真は、施設の広報に使用する目的で刊行物等に掲載することがある旨を、各事業の実施要項等にて参加者にあらかじめ通知しているものです。

令和8年8月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家

令和7年度教育事業一覧

事業名	期日・場所・対象等	内 容
テンパーク ボランティア養成事業	【期日】 5月17日(土)～18日(日) 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生、社会人等	・ボランティア活動の知識理論、救命講習 ・野外炊事 ・レクリエーション実習
テンパーク・ボランティア自主企画事業 テンちゃんキャンプ	【期日】 10月4日(土)～5日(日) 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 小学4～6年生	・法人ボランティアが企画・運営
テンパーク・ボランティア・ブラッシュアッププロジェクト	【期日】 4月～令和8年2月 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 法人ボランティア	・自主企画事業の立案 ・ボランティアのスキルアップ
課題を抱える青少年を支援する体験活動事業 テンパーク冒険子ども食堂	【期日】 8月5日(火)～6日(水) 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 子ども食堂を利用している小学4年生～中学生	・野外炊事、火起こし・焚き火体験 ・魚つかみと調理体験 ・ツリークライミング ・科学実験教室、創作活動、夏休み学習会
公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ活動等普及奨励助成時事業 あつまれ！岩手山冒険村～秋～	【期日】 10月11日(土)・12日(日) 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 年中児～小学2年生の子どもを含む家族	自然の中で五感を使った主体的な遊び ・木登り、秘密基地づくり、森の小道探検、落ち葉のプール ・創作活動、焚き火体験、ピザ、お菓子作り
全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」	【期日】 5月～令和8年2月 【場所】 岩手山青少年交流の家 東北工業大学 【対象】 県内に在籍している高校生	・オリエンテーション合宿 ・全国高校生体験活動顕彰制度 地方ステージ及び全国ステージへ参加
地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 テンパーク・鞍掛山登山	【期日】 7月13日(日)(雨天のため5月10日(土)・11日(日)より延期・開催) 【場所】 相の沢キャンプ場、鞍掛山 【対象】 小学生の児童を含む家族及び校外学習における登山を計画している教職員・関係者	・自然観察、集団の特徴に応じた安全な登山法を学びながらの登山 ・山頂湯沸かし、調理体験
地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 テンパーク・わくわくキャンプ	【期日】 7月19日(土)～21日(月・祝) 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 小学5・6年生	・テント泊 ・野外炊事 ・献立作成、食材購入、家族を招いた昼食会 ・科学工作教室

事業名	期日・場所・対象等	内容
地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 テンパーク・ウィンタークラブ	【期日】 ①令和8年1月17日（土）・18日（日） ②令和8年1月31日（土）・2月1日（日） 【場所】 岩手山青少年交流の家 【対象】 小学1～4年生の児童を含む家族	・そり遊び、かまくらづくり、雪上宝探し、スノーカート体験などの冬の外遊び ・スノーシューを使った森の自然観察体験 ・焚き火体験、焼きりんごづくり

事業実施報告

開催日	令和7年5月17日（土）～5月18日（日）		
事業名	テンパーク・ボランティア養成事業		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	36名（大学生33名、高校生3名）
対象	青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生、社会人等		
関係機関名	滝沢消防署滝沢北出張所		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

ボランティア活動に興味・関心をもつ高校生・大学生・社会人が、講義・演習・説明を通してボランティア活動の基本を学ぶことを目的とし、国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った事業内容で実施した。

「安全管理」では、滝沢消防署滝沢北出張所の職員2名による指導の下、緊急時の対応や心肺蘇生法の演習をした。「ボランティア活動の意義」では、昨年度に引き続き東北学院大学の渡邊圭氏を招聘した。事前に法人ボランティアを交えたオンラインミーティングで講義内容を検討したうえで、当日はボランティア活動の目的や意義についての講義や子供向けプログラムを考えるグループワークを行った。「ボランティア活動の技術」では、野外炊事の演習を通して、野外活動を行うための技術・知識を学び、安全管理のポイントを意識させるようにした。「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、法人ボランティア制度の仕組みや今後ボランティアの募集を予定している事業について説明した。また、法人ボランティアによるアイスブレイクや職員によるアドベンチャープログラムを通して、今後活動する上でのボランティア同士の関係作りを行った。「青少年教育」では、子どもの頃の体験活動の重要性等について、様々なデータや資料をもとに講義を行った。「青少年教育施設の現状と運営」では、社会教育施設としての役割や国立青少年教育振興機構として全国の施設とのつながり等について説明した。

【成果】

事業実施後の参加者アンケートでは、事業全体に関する満足度について、97%の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることができた。参加者からは、「班の人達とも仲を深めつつ、協力して野外炊事やグループワークをし、講義などでもボランティアに対する考え方や意義を知ることができて良かった」「救命実習などボランティア外でも使うことがあることを学べたことは非常に有意義に感じた」「ボランティアに初めて参加して、仲間との交友を深めたり、ボランティアの良さを知ることができた。子どもとの関わり方を学び、これから教員を目指す自分にとっても、役立つ内容だった」等の感想が得られた。

今回の参加者の中から、今後のブラッシュアップ研修にも参加したいという意識の高いメンバーも数名出ており、一定の成果があったと考える。スタッフとして参加した法人ボランティアのアンケートからも、自分たちのアイスブレイクや参加者との関わり方についての学びがあったことが読み取れた。

【課題】

- ・参加している学生の講義や演習に臨む姿勢に差が見られた。社会教育活動実習として参加する学生には、事前ガイダンスで事業の趣旨や内容を説明しているが、より丁寧に伝えていく工夫が必要である。
- ・「安全管理」の講義・演習は必ずしも救命講習でなくともよく、施設の活動プログラム（ショコラオリエンテーリング等）を体験しながら、危険個所チェックや安全対策を考えることも有意義である。次年度検討する。

状況写真



救命講習



グループワーク



野外炊事の演習



青少年教育についての講義



アドベンチャー・プログラム



法人ボランティアについての説明

テンパークボランティア養成事業

法人ボランティアを養成するための事業です。

受講後は・・・

テンパークのボランティアの仲間入り！！



#子ども大好き♪



#新しい仲間😊



#アウトドア大好き！

期日

令和7年 5月17日 (土) ~18日 (日)

主催・場所

国立岩手山青少年交流の家

対象

高校生、大学生、社会人等

【養成事業】

野外炊事、安全管理、
救急救命法

(普通救命講習修了証発行！)

etc...

詳しくは裏面へ！

令和7年度 国立岩手山青少年交流の家
ボランティア自主企画事業

きれいな夜空を見よう！



自然を味わおう！

テンちゃん キャンプ

～きらきらたんけんたい～

みんなでおやつを作ろう！

令和7年

10/4_土5_日

【1泊2日】

星を見たり、外で遊んだり…
1泊2日のキャンプを楽しもう！
テンパークで待ってるよ！

場 所：国立岩手山青少年交流の家
対 象：小学4～6年生 30名程度
参加費：4,200円



くわしいことは、^{うらもん}裏面をチェック！

事業実施報告

開催日	令和7年8月5日（火）～6日（水）		
事業名	テンパーク冒険子ども食堂		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	34人
対象	連携機関から推薦された子ども食堂を利用している小学校4年生～中学生		
関係機関名	認定特定非営利活動法人インクルいわて、特定非営利活動法人いなほ、矢巾町社会福祉協議会（ここかむ食堂）、森の葉風工房葉っぱのうち、Cozy place		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

1泊2日の日程で、途中雨が降ったが、計画通り1日目はネイチャーゲーム、魚つかみ体験、火起こし体験、バーベキュー体験、キャンプファイヤー、花火を行った。2日目は、科学実験教室、夏休みの宿題、ツリークライミング体験、焼き板体験、フォトフレーム作り、振り返りを実施した。

〔成果〕

- ・5つの子ども食堂の協力をいただき、定員を超える38名の応募があり、最終34名の参加を得た。
- ・小4～中3までの異年齢の班にボランティアを固定して活動した。中学生やボランティア小学生に優しく接し、活動を重ねていく毎に班の雰囲気が良くなっていった。中3の女子は、「来年はボランティアとして参加したい」と話しており、今後の人間関係を形成する上でも重要な経験になったと考えられる。
- ・昨年度の企画評価委員会を受けて夏休みの思い出作りとなるような事業にするため、様々な体験活動を組み入れ、夏休みの自由研究や宿題対策を活動に入れた。アンケートで夏休みにもう一度やりたい活動を聞いたところ、ツリークライミング体験を挙げた参加者が半数いた。
- ・昨年度は参加者だった中学生男子が、今年度は高校生のボランティアスタッフとして、二日目の野外炊事の実地踏査を事前に行ってくれた。当日は残念ながら家庭の事情で参加できなかったが、年齢を重ねて参加していく際の、目指す目標像を見出すきっかけとなった。
- ・継続して参加している子どもたちは、昨年よりも成長がみられ、班の活動から逸脱せず、活動に参加する場面が増えていた。

〔課題〕

- ・バス代の高騰と依頼した講師が多かったため、バス代と講師料の支出が事業費を圧迫した。遠方への外出は厳しく、活動の拠点は岩手山青少年交流の家となった。
- ・自閉症、知的障害、不登校、起立性調節障害など配慮が必要な児童生徒が多く、連携スタッフやボランティアの協力は必須であった。大きなトラブルはなかったが、集団から逸脱する場面が多くみられ、班によっては掌握だけで大変であった。事前説明だけでなく、ボランティア養成事業でも配慮の必要な児童生徒への対応について時間を設ける必要がある。
- ・近年の猛暑により、夏の時期の事業は、熱中症対策等を講じても限界があった。体調不良のため途中で帰宅する児童がいたり、一日目を静養室で過ごす生徒もいた。エアコンのある研修室を増やす必要がある。
- ・体験活動を多く設定したため、ゆっくり過ごす時間がほとんどなかったため、子どもたちの感想に自由に遊ぶ時間が欲しかったとあった。そのため、時間設定に余裕をもたせる必要があった。

状況写真



「魚つかみ体験」



「火起こし体験」



「バーベキュー体験」



「科学実験教室」



「ツリークライミング体験」



「焼き板体験」

仲間と一緒に
とびきりの
体験をしよう

テンパーク

夏休みの宿題も
これでバッチリ

冒険子ども食堂

2025.8.5 (火) ~8.6 (水)

対 象：小学校4年生～中学校3年生
参加費：無料

野外でごはん



仲間と一緒に火をおこそう。炭火で焼いたお肉やお魚はおいしいよ！

体験もいっぱい



魚のつかみ取りや
ツリークライミング！
夜は花火もやるよ。

夏休みの宿題も
できちゃう！



夏休みの宿題をボランティアのお兄さんお姉さんが、教えてくれるよ。



仲間と
楽しく♪



木登りにも
挑戦します！

自由研究の
ヒントもあるよ

実験に
チャレンジ



主催：国立岩手山青少年交流の家
tel：019-688-4221 住所：滝沢市後292

事業実施報告

開催日	令和7年10月11日（土）・12日（日）		
事業名	あつまれ！岩手山冒険村～秋～		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	324人（10月11日：177人、 10月12日：147人）
対象	年中児（4歳）～小学校2年生の子どもを含む家族		
関係機関名	岩手県シェアリングネイチャー協会、子どもの遊び場 つの子のアトリエ、滝沢里山研究会		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

子どもが主体となって自由に思いっきり、夢中になって遊ぶプログラムを両日とも日帰りで開催した。主な活動は「焚き火」、「木登り」、「秘密基地づくり」、「落ち葉のプール」、「探検の小道」の5つ。その他にピザの提供や創作活動などのワークショップを行った。

〔成果〕

(1) 事業後のアンケート結果

- ・「お子さんは遊びを楽しんだり熱中したりする様子は見られたか」という問いに対し、「とてもたくさん見られた」、「たくさん見られた」と回答した割合が99%だった。
- ・「お子さんがやりたい遊びを尊重したり、一緒になって遊びを楽しむことができたか」という問いに対しては、「とてもよくできた」、「できた」と回答した割合が100%だった。
- ・事業全体の満足度について、回答者の97%から肯定的評価が得られた。
- ・感想などの自由記述回答を見ると、「自由に遊べるのがとても良いと思った。」や、2日目は雨天での実施であったが「雨の中で遊ぶことが減多にさせてあげられないので、逆に楽しそうで良かった。」など、天候に関わらず自由な遊びの時間を満喫していただけたことが分かった。
- ・「本日はありがとうございました。最後に娘からの一言『1日じゃ足りなかったよ〜』」、「もし可能であればもっと頻繁に開催して頂きたい。もしくは、予約なしでの当日参加枠も設けてもらいたい。」など今後のニーズがあることも分かった。

(2) 事業運営について

- ・「冒険村アドバイザー」の活用
準備段階で数回フィールドを訪問していただき、指導助言を得たことでプログラムの改善につながった。また、安全管理についても多くの指導助言をいただくことができた。
- ・雨天時の工夫や留意点等についての知識・スキルの蓄積
2日目は雨天だったが、あらかじめ想定・準備していた内容でどうにか対応できた。改善すべき点なども見つかかり、次年度以降の活動プログラム化に向けて、知識やスキルが蓄積できた。

〔課題〕

(1) 計画・運営要領等の共有

- ・準備の計画や業務分担、運営要領等の提示があいまいだったり、直前になってからの提示だったりした。そのため、準備完了に余裕がなく、業務分担や作業内容・流れがあいまいな点もあった。

(2) プログラム数と職員数のバランス

- ・提供したいプログラムを考案することが先行し、担当職員の割当に余裕がなかった。円滑な運営や安全管理の面からも、留意して企画しなければならなかった。

状況写真



「焚き火」



「木登り」



「秘密基地づくり」



「落ち葉のプール」



「探検の小道」



「創作活動」

公益財団法人スポーツ安全協会
スポーツ活動等普及奨励助成事業



家庭や地域では
できない遊びを
提供します！



あつまれ！

岩手山冒険村～秋～

わくわく いっぱい ひらめいた



開催日

10月11日(土)

10月12日(日)

両日とも日帰り

対象：年中児～小学2年生



提供プログラム

- ・ 落ち葉のプール
- ・ 創作活動「森のゆらゆらパーティー」
- ・ ピザ、バウムクーヘンづくり
*手作りピザやお菓子づくり
- ・ 木登り *ハンモック、ハイジのブランコ
- ・ 秘密基地づくり
- ・ 森の小道探険
- ・ 焚き火 *薪割り、火起こし、足湯



主催：国立岩手山青少年交流の家

お申し込みは裏面から

事業実施報告

開催日	令和7年5月22日（木）～23日（金）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	24名
参加学校名等	岩手県立平館高等学校2年生		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援・講師） 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 岩手県立図書館（展示）		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

昨年度末に掲載された平館高校の探究活動についての新聞記事をきっかけに、平館高校の探究活動を担当していた地域コーディネーターと連絡を取り、連携を打診した。その後、平館高校に事業の説明に伺い、当プログラムに関心をもってもらい、オリエンテーション合宿のカリキュラムを1年生と2年生とそれぞれが実施することになった。

今回の2学年の探究のテーマは、「八幡平の観光大使になろうプロジェクト」である。1年時から実地調査等を繰り返し行っており、内容ごとにグループを編成して合宿に参加した。合宿では、地域探究プログラムの探究のプロセス「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の過程を経由できるようにカリキュラムを構成し、多方面の講師を選定した。

【成果】

アンケートでは、96.3%の生徒が事業に対して肯定的な回答を示した。満足できなかった生徒は、事業全体に対するものではなく、個々の取り組みが満足できるものではなかったとのことだったので、今後発問の仕方に工夫が必要である。

充実した講師陣による講義を提供できたことで、生徒の学習意欲を高めることに寄与できた。

岩手県生涯学習振興協会事務局長の佐々木勉氏とフリーアナウンサーの村井由紀子氏は、生徒とたちの学習に寄り添い、見守り、必要に応じてアドバイスをくださった。また、岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」との交流会は大変好評で、高校生からは「的確なアドバイスをもらえた」との感想が多かった。高校生と年齢に近い大学生からの助言は、生徒たちにとって心に響き受け入れやすいものだった様子で、アンケート結果をみても有効であることが分かった。

地域コーディネーターのワークシートやフリーアナウンサーの「伝わる！プレゼンテーション」の講義を経て、最終日にはそれぞれ工夫を凝らしたプレゼンテーションとなっており、合宿の成果が見られた。

最終発表の講評には、岩手県教育委員会の主任指導主事の千葉智恵氏が来所し、高校生の探究に期待することをお話いただいた。さらに、生徒の発表に対し示唆に富んだ話や意欲付けをしていただいた。

【課題】

●タイトな日程調整

4月に合宿が決まり、5月の実施まで限られた時間の中で、講師の選定やカリキュラムの時間配分はとても厳しかった。メイン講師と平館高校の地域コーディネーターと、何度もオンライン会議を実施して当日を迎えたが、情報を関係者全員に周知できなかったことがあった。

●予算の削減

昨年度の地域探究プログラムの予算より10万円減額でさらに、申込学校数が増えたことで、講師謝金や送迎費用、Wifiレンタル代等でのやりくりに苦労した。

●学校現場とのスケジュール感のズレがあること

学校の総合的な探究の時間は、1年間をかけてテーマを探究していく。地方ステージに向けての活動報告書の提出締切が11月28日で、実践活動をする時間が少ないとの指摘があった。また、オリエンテーション合宿のカリキュラムに発表の時間を盛り込むことや完成されていないものを外部で発表する等、高校側が進めるのに支障があり、難色を示す場面があった。

状況写真



「考えるな、動け！限界を突破しろ！」



「伝わる！プレゼンテーション」



アイスブレイク
(講座担当:テンパークスタッフ)

外部講師による講義
(生涯学習振興協会事務局長 佐々木勉氏・フリーアナウンサー村井由紀子氏)



県立大「えんぶらり。」の発表・交流



発表への助言



講評

最終発表・講評
(講師:岩手県教育委員会高校担当他)



集合写真

事業実施報告

開催日	令和7年8月26日（火）～27日（水）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	38名
参加学校名等	岩手高校2年生（プログラミングコース）		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援・講師） 盛岡市動物公園 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 岩手県立図書館（展示）		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

今年度も岩手高校プログラミングコース独自の宿泊行事「アイデアソン」の中で、オリエンテーション合宿のカリキュラムを実施した。今回の学校設定テーマは、岩手高校理科教員の提供による「生物多様性と人的被害」である。昨今、熊の出没による人的被害、イノシシによる大規模な農作物の被害などが岩手県のニュースを賑わせていたので適時性を活かせるとともに、様々な企業や行政との連携についても考察でき、さらに生徒自身が自分の問題として捉えられるような工夫が求められる。そこで、テーマへの理解を深めるプログラムと講師の選定を提案し、サポートを行った結果、プログラム満足度では100%の生徒が肯定的な回答を示した。事業全体に関する満足度は88.6%であった。その後、8グループすべてが探究活動の成果をまとめることができ、地方ステージに向けて報告書作りに前向きに取り組むことができた。

【成果】

○充実したプログラムを提供できたこと

生徒たちがテーマと向き合い、解決に向けてアイデアを出すには、様々な意見を出し合うことが一番だと考え、テンパークスタッフで「プレスストーリーミング」、「why why法」、「KJ法」の技法を提供した。ワークショップ形式で具体的に取り組むことで、生徒たちは体感できた様子だった。体験後にはホワイトボード一面にイメージマップを作成しているグループが多く、テーマを自分事として捉え、意欲的に取り組む姿がみられた。感想には「極端な意見にならないように他の視点から物事を考えるなど、この事業を受ける前より探究は深まった。」との記述があり、生徒の学習意欲を高めることに寄与できたと思う。

○生徒の実践活動につながるサポートができたこと

岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」との交流場面を今年度も入れたことで、高校生からは「発表を誰を対象にどのようにするのかということを教えてもらったことが大きかった」などの感想があった。高校生と年齢が近い「ナナメの存在」である大学生からのアドバイスに加え、今回、探究学習を担当している岩手県教育委員会の主任指導主事の抱石鉄也氏や盛岡市動物公園の森敦子氏が最終発表の助言者として参加した。それぞれの立場から実践の重要性を助言していただいたこともあり、生徒たちは、合宿を通じて出会った盛岡市動物公園と「手を組んで活動できるチャンスをいただいたので、活かそうと思う」等、実践を意識した提案が多く見られた。

11月には岩手県立図書館のユースコーナーに1か月間の展示の許諾をいただき、合宿の成果物を広く発信する機会を提供することができた。パネルをご覧になった方から実践活動につながるアイデアをいただく予定である。

【課題】

●研修環境の一層の充実

昨年度研修室で活用したスポットクーラーが、あまり効果がなかったため、エアコンが唯一設置されている研修室で全ての活動を実施した。研修環境が大幅に改善され、引率者からも好評であったが、中間発表や最終発表で、声が反響し隣のグループの説明と音が重なり聞きにくいとの意見があった。広い研修室にも空調機器の設置が強く望まれる。

●生徒の実践活動を後押しするためのサポート

岩手高校プログラミングコースのカリキュラムや取組そのものが秀逸であり、どのように学校の取組を効果的にサポートしていくかが今後も課題である。今回、合宿での多様な人々との関わりがその後の実践活動につながったことを踏まえ、大学生団体等の活動事例、当施設の出前講座（ブース出展）等を紹介することで、生徒の実践活動をさらに後押しすることができると考える。適宜、情報提供等を行ってきたい。

状況写真



テーマの発表



情報収集



グループで発想を広げる(イメージマップ)
(講座担当:テンパークスタッフ・藤井所長)



県立大「えんぶらり。」の発表・交流



発表



講評

ポスターセッション・講評

講評:藤井所長、抱石鉄也氏(教育委員会)森敦子氏(盛岡市動物公園)



記念撮影

事業実施報告

開催日	令和7年9月16日（火）～18日（木）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	18名
参加学校名等	岩手県立平舘高校1年生		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援） 八幡平市社会福祉協議会 岩手県障がい者スポーツ協会 工房寿限無 滝沢里山研究会 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 田楽茶屋 岩手県立図書館（展示）		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

今年度から、新たに平舘高校のサポートを行うことになった。年度初めの話し合いで、今年度は、活動報告書は作成せず顕彰制度にはエントリーはしないこと、岩手山青少年交流の家では、数多くの直接体験をしたいという学校の希望を受けて、オリエンテーション合宿の内容を企画し提案をした。

1年生の学校設定テーマは、「八幡平満喫プラン～私たちの街を世界へ～」である。地域コーディネーターが、地域の観光資源の見学や担当者からの講話を学校の授業で企画していたので、合宿では、八幡平市の産物を使った工芸体験や食文化を学ぶ調理体験を計画した。さらに、当施設の「キャップハンディ体験」を活用し、八幡平観光時に福祉の視点を意識できるように、大更駅周辺での車いす体験と白杖体験も取り入れた。このように直接体験することで、生徒自身が自分の問題として捉えられるような工夫をした。

テーマへの理解を深めるプログラムと講師の選定を提案し、サポートを行った結果、事業全体に関する満足度では100%の生徒が肯定的な回答を示した。

【成果】

○充実したプログラムを提供できたこと

事業実施にあたり、地域コーディネーターの鈴木絵美氏、講師の佐々木勉氏とオンライン会議の実施や、藤井所長とのレクを繰り返し行い2泊3日を生徒自身に気づきを生み出すような充実したプログラムに構成することができた。

1日目のキャップハンディ体験は現地のフィールドで行った。当施設の既存の活動プログラムを大更コミュニティセンターで行い、さらに駅や病院、ホテルを白杖や車いすでグループごとに周回した。当事者の講師や障がい者スポーツ協会の講師の助言も示唆に富み、事後のワークシートを主体的に書き込む姿が見られ、学習を深めることができた。

2日目は、滝沢里山研究会の近藤修三氏を講師に郷土食にスポットをあてて、大豆の活用を学び豆腐田楽を作ったり、ひつまや朴葉団子、雑穀飯や大根飯にも挑戦した。会場の南部曲り家で八幡平の気候や歴史に思いを馳せながら、体験する楽しさを満喫した。午後は、日本で唯一のあけびつるを使った表札作りを行った。夢中になって取り組むことの楽しさに気づきがあった様子で、旅行者のニーズに合わせて提案していく様子が伺われた。その後、ブランドストーリーの大平恭子氏より食の価値づけの話があり、県北地方の素朴な料理がまさにヴィーガン食だった話や、宗教上の理由で食べられない素材がある話など、様々な気づきを与えてくださった。夜の振り返りでは、岩手県立大学の「えんぶらり。」の福田氏のアドバイスもあり、今までないような活発な意見交換が見られた。どの講師もすぐに答えを出さずに寄り添う姿勢からのアドバイスのため、生徒たちは終始意欲的であった。

最終日は、コーディネーター自作のワークシートを活用し、模造紙にポンチ絵風にまとめた。佐々木勉氏のアドバイスを受け、遊びの要素を取り込んだ提案に会場はいい雰囲気での発表となった。最後に3名の講師より講評をいただき、生徒たちは学びがあった様子であった。アンケートをみても、テーマを自分事として捉え、意欲的に取り組む姿がみられた。

岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」との交流場面を取り入れたことで、高校生からは「自分では気が付かないことを教えてもらったので、次は内容や発表の仕方を工夫したい」との感想があった。高校生と年齢が近い「ナナメ的存在」である大学生からのアドバイスに加え、今回、探究学習を担当している地域コーディネーター鈴木絵美氏と岩手県生涯学習振興協会の佐々木勉氏から、活用しやすいワークシート、ポンチ絵などの教材の工夫も効果的であった。

【課題】

●予算削減

昨年度と比較して大幅な予算削減のため、参加生徒の送迎にバスやタクシーを使用することが出来なかった。2泊3日の実施のため、食費等の経費もかかり、生徒の集金額を増やすことに対し学校側から懸念を示され、活動経費の徴収に制限があり予算設定に苦労した。

●生徒の実践活動を後押しするためのサポート

平舘高校の探究の時間の取り組みそのものが秀逸であり、合宿以後も積極的に地域での実践活動が組まれていた。当施設の学校のサポートとしては、合宿での多様な人々との関わりをその後の実践活動につなげていくことを踏まえ、大学生団体等の活動事例、繋がった講師からの情報発信、県立図書館でのパネル展の企画等で、生徒の実践活動をさらに後押しすることができると考える。適宜、情報提供等を行っていきたい。

状況写真



事業実施報告

開催日	令和7年7月13日（日）		
事業名	テンパーク鞍掛山登山		
開催場所	相の沢キャンプ場、鞍掛山	参加人数	9家族 26名
対象	小学生の子どもを含む家族		
関係機関名	滝沢市山岳協会		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

日帰り日程で、鞍掛山（897m）の登山を行った。鞍掛山の登山口である相の沢キャンプ場を集合場所とし、登山指導員4名、所員4名で対応した。9家族を2～3家族ごとに班分けをし、各班に1名の登山指導員を配置して、参加者のペースに合わせて登ることができるよう配慮した。開会式終了後9時45分に登山を開始し、各班の登山指導員が鞍掛山の登山道で見ることができる花、木、虫などを、その都度立ち止まりながら参加者に説明した。途中、第1、第2展望台で休憩をとりつつ、12時ごろに全ての班が山頂にたどり着いた。山頂では、景色を楽しんだり、お弁当を食べたり、全体写真を撮ったりした。貸し出ししていたガスバーナーでアウトドアクッキングを楽しむ家族もいた。岩手山青少年交流の家の駐車場から鏡を使って山頂に日光を送る「キラキラビーム」を行ったところ、参加者から歓声が起った。下山後は、全体での閉会式は行わず、登山指導員が司会をして各班ごとに閉会式を行った。今回、5月12日・13日（予備日）を実施予定としていたが、2日とも荒天による順延で7月に実施することとなった。

〔成果〕

- 登山指導員を2～3家族（6～7名）に一人配置し、登山開始前に靴紐の結び方、ザックの詰め方の基本的なことや準備体操などを丁寧に行った。初めての登山で不安のある参加者にとっても安心してもらうことができたと思われる。登山指導員には事前打ち合わせ、当日打ち合わせにおいて、参加者の様子をよく確認して、安全にかつ充実した指導をお願いしていたため、参加者の期待に応えられたと思われる。
- 登山指導員が参加者のペースに合わせ、急ぎすぎずゆっくりと登ることを徹底していたため、体力的に心配していた参加者にとっては苦しい登山という思いをさせることなく、ちょうどよい運動の負荷であった。
- 途中、疲れがでてきて、あきらめそうになる子どももいたが、登山指導員や保護者の温かい声かけにより、最後まで登ることができた。最後まで登り切ったという達成感を味わうことができたと思う。
- 事業後のアンケートでは、「子どもが最後まで弱音を吐かず参加することができた。」「植物の名前や豆知識を教えていただき勉強になった。」「子どもは初めての登山だったが安心して登ることができた。」など肯定的な意見を得た。また、満足度に関する4項目全てにおいて、「満足」「やや満足」を合わせて100%であった。今回の事業では、登山を通して親が子どもの成長を体感するとともに、親子登山の魅力に触れ、家族で継続的に登山を行ってみたいという意欲を高めることができたと思われる。

〔課題〕

- 登頂の時間がグループごとで差ができたため、昼食時間が短くなってしまう家族があった。時間差を設けて登り、各グループに十分な昼食時間を設けたい。
- 職員、登山指導員、受付の本部テントに1台ずつ無線を配置したが、場所によって無線が通じにくいところがあった。その場合の連絡手段について事前に職員間で確認しておくべきであった。
- 当初予定していた5月の日程では43家族の応募があった。別季節でも開催することができれば、各季節の山や自然の魅力を体験することのできるため、次年度以降の実施計画を今後検討していきたい。

状況写真



登山前にグループであいさつ



登山指導員による植物の説明



展望台で休憩



頂上で記念撮影



山頂で昼食

主催：国立岩手山青少年交流の家

(企画・運営：みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会)



テンパーク 鞍掛山登山

5月10日 (土) 9:00~14:00

予備日 5月11日 (日)

「登山をしてみたい！でも家族だけでは不安、、」

そんなファミリーをサポートします

登山ガイドさんが安全な山の登り方を教えます。

道中の山の草花や樹木を楽しみましょう！



家族で昼食



山頂の景色

国立岩手山青少年交流の家

集合場所：相の沢キャンプ場（たきざわ自然情報センター）

滝沢市鶴飼安達114-7

参加費：1人 700円



お申込みは裏面
をご覧ください



登山用具の貸し出しも無料です

●お問い合わせ●

TEL：019-688-4221

MAIL：iwate-jigyo@niye.go.jp

主催：国立岩手山青少年交流の家

(企画・運営：みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会)

春の山を満喫しよう!



テンパーク 鞍掛山登山

5月10日 (土) 9:00~14:00

予備日 5月11日 (日)

登山ガイドさんが安全な山の登り方を教えます。

校外学習における登山活動の引率の事前踏査になります。

安全な登山の方法や危機管理、持ち物についての助言も行います。



国立岩手山青少年交流の家

集合場所：相の沢キャンプ場（たきざわ自然情報センター）

滝沢市鶴飼安達114-7

参加費：1人 700円



お申込みは裏面
をご覧ください



登山用具の貸し出しも無料です

●お問い合わせ●

TEL：019-688-4221

MAIL：iwate-jigyo@niye.go.jp

事業実施報告

開催日	令和7年7月19日（土）～7月21日（月・祝）		
事業名	テンパーク・わくわくキャンプ ～楽しく学ぶ！科学×クッキング×テント泊～		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	30名
対象	小学5・6年生		
関係機関名	滝沢市教育委員会、ビッグハウス菓子店		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

学校で学んだ知識や技能を活用しながら、野外炊事やテント泊などの体験活動を通して、家庭科や理科、算数など各教科の学びを深めるとともに、自分で考え学ぼうとする意欲を高めることを目的とし、2泊3日のキャンプを実施した。

1日目、アイスブレイクで交流を図った後、午後からキャンプ場で自分たちが宿泊するテントを設営した。初日の野外炊事（サマークッキングⅠ・学ぶ）では、栄養士の菅原亜紀子先生から、家庭科で学習する五大栄養素や食べ物のありがたさなどについて指導をいただき、カレーライス、焼きそば、豚汁の3コースから選択して夕食を作った。その夜、最終日に家族にふるまう料理を班で話し合い、栄養バランスや予算を考えながら買い物計画を立てた。

2日目、午前中の科学工作教室では、電気の流れや明かりのつき方等の実験を行った後、一人一つ懐中電灯のキットを組み立てた。午後はバスで地元のスーパーへ行き、1日目の夜に作った買い物計画をもとに実際に品物と値段を見ながら、予算内に収まるよう工夫して食材を購入した。2回目の野外炊事（サマークッキングⅡ・試す）では、家族にふるまうオリジナルメニューを試作した。入浴後、自分たちが作った懐中電灯を持って、夜の森のナイトハイクを楽しんだ。

3日目、朝からテントや寝袋を片付け、午前中から3回目の野外炊事（サマークッキングⅢ・ふるまう）を行った。迎えに来る家族にふるまう料理を、1・2日目の反省を生かし、盛り付けにもこだわりながら作った。完成した料理について話しながら、家族と会食することができた。

【成果】

事業に対する参加者の満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて、94%であった。事前・事後アンケートの比較では、「先のことを考えて自分の計画を立てる」「実験や観察で新たな発見をすることに興味がある」等の項目で有意な得点の向上が見られた。保護者の事後アンケートからも「キャンプ後、包丁を使ってお手伝いをしたがるようになった」「今まで以上に積極的に料理をしたいと張り切っている」との声が多くあった。自分たちで献立を考え、買い物をし、料理を作るという体験をしたことにより、特に家庭科(料理)の面で、自分で考え学ぼうとする意欲が高まったと考えられる。12月の滝沢市の教職員研修会で本事業の取組を発表し、教育関係者に本事業の意義を伝えていく。

【課題】

・初日の野外炊事で、子どもたちがどんな料理を選択してもいいように食材を多めに準備したが、食品ロスが多くなった。食べ物のありがたさについて栄養士の先生から指導していただいたので、食材を有効に使えるよう工夫させると良かった。

・ボランティアの協力が欠かせない事業であるが、一部学生に子供への接し方や参加態度に課題が見られた。事前のオンラインミーティングは実施したが、社会教育活動実習のガイダンスやボランティア養成事業の段階からしっかりと指導する必要がある。

状況写真



科学工作教室



野菜を切る



テント設営



買い物



鉄板で焼く



作った料理をふるまう

体験を通して理科や算数、家庭科など
学校での学びが深まるキャンプです。



令和7年度 教育事業 【小学5・6年生対象】

テンパーク・わくわくキャンプ

～楽しく学ぶ！ 科学×クッキング×テント泊～



買い物に行こう！



オリジナル料理を作ろう！



薪で火を起こそう！

献立を考え料理を作る。
作ったライトで夜を過ごす。
夏休み前に、自分で生活
できるようになる！

7月19日（土）～21日（月・祝） 2泊3日

主催：国立岩手山青少年交流の家

（企画・運営：みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会）

後援：岩手県教育委員会

お申し込みは裏面から

事業実施報告

開催日	令和8年1月17日（土）、1月18日（日）、1月31日（土）、2月1日（日）		
事業名	テンパーク・ウィンタークラブ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	1月17日 36家族117名 1月18日 33家族113名 1月31日 30家族103名 2月1日 29家族106名
対象	小学校1～4年生の子どもを含む家族		
関係機関名	岩手県子ども会育成連合会、岩手県シェアリングネイチャー協会、滝沢里山研究会		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)		
〔事業の内容〕 本事業は、冬のテンパークの自然を活かした活動を通して、親子が一緒に体を動かし、自然への親しみを深めるとともに、地域ならではの文化に触れる機会を提供することを目的として、全4回開催したものである。冬ならではの遊びや体験を通じて「冬の楽しさ」や「また遊びたい」という気持ちを育み、家庭での遊びや体験につなげることを目指した。 昨年度よりも実施回数を増やすと同時に、岩手県子ども会育成連合会の広報協力を得て、多くの家族に体験機会を提供した。岩手県シェアリングネイチャー協会の指導のもと、ネイチャーゲームとスノーシューを用いて冬の自然を発見する「スノーシュー探検隊」を実施した。また、滝沢里山研究会の協力により、「焚き火体験」や「かまくら・イグルー・雪洞づくり」のプログラムも展開した。その他、「そり遊び」「スノーカート」「雪のすべり台」「雪中たからさがし」、ダッチオーブンの「焼きリンゴづくり」など、多様な体験を提供した。		
〔成果〕 ① 冬の自然体験活動に対する継続意向の向上 「今回の事業をとおして、もっと家族で冬の自然体験活動をしたかったですか？」との設問に対し、参加者の98%が「もっとしたい」「したい」と回答した。冬の外遊びについては「準備が大変」「家ではできることが限られる」といった声があり、心理的ハードルが存在するが、実際に体験することで、「冬もたくさんアクティビティがあることが分かった」、「寒くて外に出たくないと思っていた気持ちが変わった」、「子どもたちが楽しそうなので、時間が作れればもっと増やしたい」などの記述が見られ、冬の外遊びへの抵抗感が軽減されたことがうかがえる。 ② 普段冬の自然体験をあまりしない家庭へ機会を提供し、継続意欲を高めた 本事業の参加者のうち、普段の冬の体験活動を「しない」または「シーズンを通して1～2回程度」と回答した家族は全体の40%を占め、冬の体験活動が少ない家族にも機会を提供できた。特に、普段「しない」と回答した9家族のうち7家族が継続意欲を示し、「どちらでもない」とした2家族からも、活動を楽しんだ旨の記述があった。		
〔課題〕 ① 冬の体験活動に対するハードル 冬の体験をあまりしない家族からは「寒いので出たくない」「冬は家にこもりがち」といった声が寄せられ、冬の外出自体がハードルとなっている。また「準備が大変」との記述もあり、これらが継続や頻度向上の障壁になっていることが分かる。家庭外から機会が提供されることで負担感が軽減されるため、継続的に体験の場を提供していくことが、冬の自然体験活動を促進する上で重要である。 ② 参加者の動線・事業内容について テンパーク内の広いエリアを活用したが、雪上の移動は参加者にとって負担が大きいため、安全に配慮しつつも、よりコンパクトな配置にできる部分がないか検討が必要である。また、事業目的に掲げる「地域ならではの文化に触れる機会」という要素が弱く、参加者に伝わりにくかったため、文化的要素の見せ方や動線の強化が課題となった。		
状況写真		
		
親子で一緒に そり遊び	スノーカートで 雪上を大疾走	美味しい焼きリンゴで ほっこり
		
冷たいけど楽しい 雪上たからさがし	スノーシュー探検隊で 冬の自然を発見	かまくら作りにも挑戦

みちのく「体験の風をおこそう」運動実行委員会

テンパーク ウィンタークラブ

令和8年

1/17(土)・18(日)

1/31(土)・2/1(日)

全日程、日帰りで開催！！



★参加費★

小学生以上

300円

未就学児

200円

※有料プログラム、昼食代等は別途料金がかかります。



@iwate.tenpark

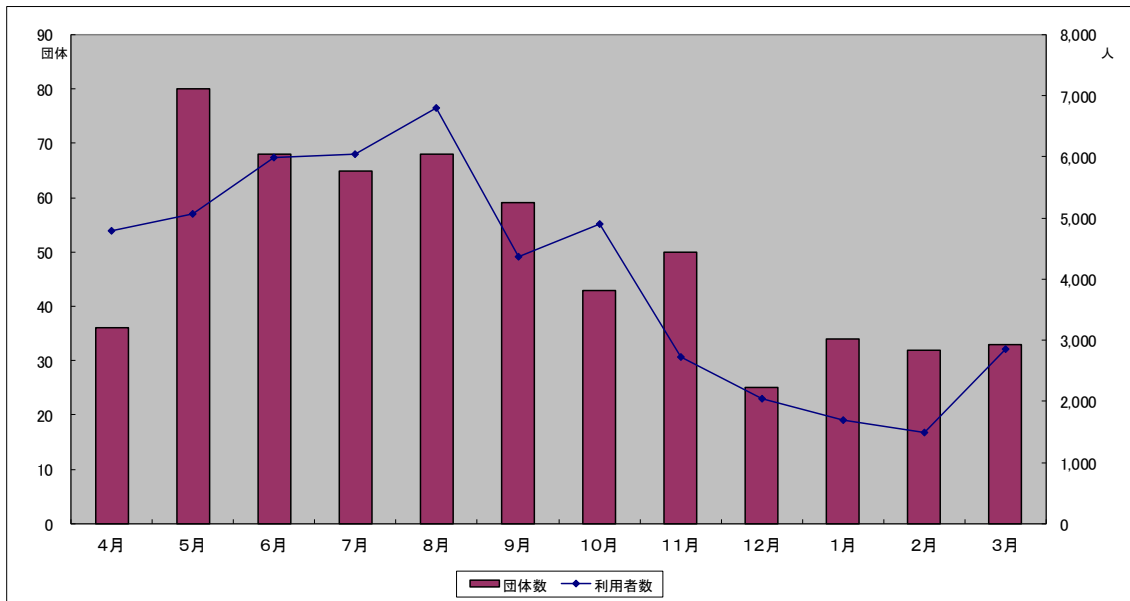
Instagramで
当日のプログラムを
随時、紹介していきます！

【 令和7年度 記事掲載状況一覧 】

No	掲 載 日	媒体名	掲載面	記事見出し等
1	令和7年5月22日	平舘高校情報発信 チーム	ウェブ	「地域探求プログラム」ちいプロ×「八幡平探究プロジェクト」はちたん
2	令和7年5月29日	平舘高等学校	ウェブ	2学年総探合宿
3	令和7年8月29日	いわて高校魅力化 (岩手県教育委員会)	ウェブ	平舘高等学校・総合的な探究の時間にお邪魔しました
4	令和7年8月29日	岩手中・高等学校	ウェブ	プログラミングコース アイデアソン2025
5	令和7年8月31日	岩手日報	13面	課題解決、思考のマラソン 岩手高生探究学習
6	令和7年9月19日	岩手中・高等学校	ウェブ	プログラミングコース ハッカソン2025
7	令和7年10月5日	平舘高校情報発信 チーム	ウェブ	ひらこう広がる・深まる地域連携 2年はちたんキャラ班何してきたの？
8	令和7年10月21日	岩手県立図書館	ウェブ	「岩手高等学校・平舘高等学校の地域探究プログラムポスター展」
9	令和7年11月24日	マナビィ・メールマガ ジン第344号	ウェブ	国立岩手山青少年交流の家 教育事業 「R7テンパーク・わくわくキャンプ」～楽しく学ぶ！科学×クッキング×テント泊～ (川村 麻理衣 企画指導専門職 寄稿記事)
10	令和7年12月26日	岩手県立平舘高等 学校	ウェブ	【2年生】総探の研究を東北大会で発表！
11	令和8年2月5日	広報はちまんたい No.368	17面	わたしキラメク平高通信vol.71 「探究の成果を東北大会で発表」 (岩手県立平舘高等学校 令和7年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探求プログラムち いぶろ！」地方ステージ 出場の紹介)
12	令和8年2月16日	岩手中・高等学校	ウェブ	令和7年度「地域探究プログラム」地域探究アワード全国ステージ 金賞
13	令和8年2月27日	岩手県立平舘高等 学校	ウェブ	令和7年度総合的な探究の時間「はちたん」報告会を実施！

施設利用実績

月別利用状況



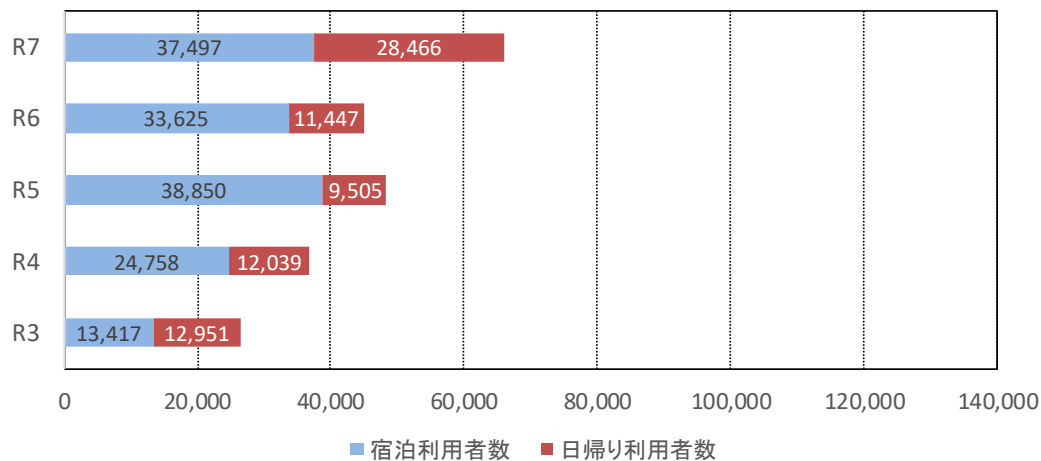
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	36	80	68	65	68	59	43	50	25	34	32	33	593
利用者数	4,798	5,073	5,988	6,042	6,795	4,359	4,896	2,722	2,045	1,701	1,484	2,859	48,762

施設の利用実績（過去5年間の比較）

単位：人

年 度	総利用者数			研修支援事業			主催事業(教育事業等)			宿泊室稼働率 %
	合 計	宿 泊	日帰り	小 計	宿 泊	日帰り	小 計	宿 泊	日帰り	
R7	48,762	37,497	11,265	47,368	36,987	10,399	1,376	510	866	30.9
R6	45,072	33,625	11,447	44,113	33,195	10,918	959	430	529	27.6
R5	48,355	38,850	9,505	46,472	37,562	8,910	1,890	1,295	595	31.9
R4	36,797	24,758	12,039	32,620	23,616	9,004	4,177	1,142	3,035	50.5
R3	26,368	13,417	12,951	20,661	12,248	8,413	5,707	1,169	4,538	20.9

総利用者数および 宿泊・日帰り利用者数の推移（過去5年間の比較）



本施設の動画配信について

当施設の紹介、体験活動の紹介を動画にて配信しています。



テンパーク施設紹介ちゃんねる【国立岩手山青少年交流の家公式】

野外炊事の方法、ベッドメイキングのしかた、入浴の方法、レストランの利用方法、キャンプファイヤー、創作活動の紹介などを動画で紹介しているチャンネルです。



動画



テンちゃんねる【国立岩手山青少年交流の家 テンパーク 公式】

体験って、たのしい！
「体験の風をおこそう」運動を推進するため、さまざまな体験活動を紹介しているチャンネルです。



動画



体験活動動画 ▶ すべて再生





独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家

〒020-0601 岩手県滝沢市後292

代表 TEL 019-688-4221 FAX 019-688-5047

<https://iwate.niye.go.jp> E-mail : iwate-suishin@niye.go.jp